

第5回みやぎ観光振興会議仙南圏域会議 委員発言要旨

3 議事

(1) みやぎ観光回復戦略の策定と進捗状況について

(宮原座長)

- 回復戦略の回復フェーズでは、現在「国内回復期」の想定となっているが、今の現状としてはまだ感染拡大が継続している状況において、県として計画の進捗やこれからの対応についてどのように取り組まれるのか考えがあれば伺いたい。

(観光課 川部補佐)

- こちらの回復フェーズは、策定時にある程度回復に向かうというシナリオに基づいて整理させていただいた。実際は今感染が拡大している状況でありまして、回復フェーズとしては現状としては大分前の状況に戻ってしまっている状況ととらえている。現状の認識としては、まずは感染の拡大を抑えることがまずは最優先に考えるべきことと思っており、感染拡大が収まりましたら、次の一手を打つことができるように準備を進めて参りたいと考えているところです。

(宮原座長)

- 計画としては資料にお示しの流れではありますが、今後また状況が変わった時には、それぞれの事業を変えるなり、追加するなりして、回復戦略としては動かしていくということによろしいですね。

(観光課 川部補佐)

- そのとおりです。国の補正予算もまた県にくると思いますので、その現状の感染状況を踏まえて、次に何ができるのかしっかりと検討していくということで準備を進めているところです。

(宮原座長)

- 仙南の取組について、仙南らしい取組みもずいぶん出てきていると思うのだが、みやぎ蔵王三十六景の活かし方がこのなかにほとんど触れられていない。仙南ぶらり旅でもそうだが、マイクロツーリズムをするときに、お店を出た後に蔵王の景色が見えるとか、ちょっと写真を撮りにいく場所があると言った時に、みやぎ蔵王三十六景の情報も載せたり活かしてもらいたい。パンフレットのなかにそういった場所があることを伝えていただかないと、点として紹介はしているが、広域的にお客さんが周遊できる仕組みとしては弱いところがあるのかなと思う。

(事務局 狩野部長)

- 本日お配りした「仙南ぶらり旅」には三十六景の紹介はないが、現在作成中の東北 DC に向けた観光マップでは三十六景も掲載しており、今後も今いただいたアドバイスにもとづいて進めて参りたいと思います。

(宮原座長)

- 是非、三十六景のロゴの掲載、活用もよろしくをお願いします。

(2) 第5期みやぎ観光戦略プランについて

(宮原座長)

- 第4期プラン策定までは、圏域ごとの会議は設定されておらず、県庁に観光関係の人達が一堂に集まって計画を作っていました。今回このように7つの圏域の皆さんたちのご意見をきちっと集約する形は初めての取り組みになります。これはすごく良い取り組みで、地域から非常に具体的な意見や課題が出されているので、是非第5期観光戦略のプラン策定に関しても、圏域ごとの皆さんからのご意見をしっかりと吸い上げていただきたいと思います。
- 最終的には観光の産業の中で、地域経済をどのように持ち上げていくか、稼げる観光をどのよ

うに作っていくか、産業としてどのように進めていくべきかということについて、皆様からいろいろご意見をいただければと思います。

(村上委員)

- なんとと言っても、コロナが一つのポイントとなる。第三波といわれているが、そんな中で、感染拡大をできるだけ抑えながらブレーキを踏みながら、進めていくような状況。
- このコロナ禍、ワクチンが出たとしても完全に収束ということにはならないと思う。コロナとある程度共存していく形で取り組んでいかなければならないと思っている。

(藤田委員)

- 毎回、会議に来てたくさんの資料をいただくが、それこそデジタル化を進めましようと思う。
- 紙の観光パンフレットは、ここへ足を運んで来た方は手に取るでしょうけれども、デジタル化して県外の方々にしっかり届けられると、皆さんが選ぶポイントになるのではないかと思う。そういったところからこのコロナでちょっと停滞している期間中に、一気に進めていただければいいのかなと思う。
- 今後の宮城の人口減少含め将来の云々というところですけども、私も現場を預かっていて多分きっと若いみなさんが僕のやり方、或いは、僕らの意見に対して、多分いやこうじゃないですよとか、こうしたらいいじゃないか、でも言えないよねというところの意見がきっと一番大事な意見であり、こういった会議では皆さん経験積んできた方々が集まっていっしょにしゃべりましょうけれども、どちらかというと、本当はその現場の若い子たちの意見が一番この後県の将来含めて、考えていくには大事な部分になってくるのではないかなと思います。
- 若い子のために、その将来を考えながらやっているつもりはありますけれども、実際、現場でこの施設を10年20年動かしていくんだというつもりでやっている若い人たちの意見をうまく吸い上げてあげるのが、ここにいらっしゃるような立場の方々がいなければいけないことなのかなと考えておりました。
- センター宿町としては小さな町ですが、ここ数年高齢化率が上がっていかかったり、町の中に幾つかある法人がきっちり連携が取れてきたり、結構センター宿町はいい感じですよ、というふうに思っています。
- なので、県南に来てからさらにセンター宿にきてもらえるような環境づくりは、町としては、少しずつではありますが進んでいるのかなというふうに思っています。

(嶋崎委員)

- 人口減少社会についてですが、人口が減ること自体悪いことではない。成熟した社会では当たり前のように出生率は上がりません。今は結婚しないとか、結婚しても子供はいらないよという選択肢が増えるのは当たり前で、そういう世界の方が逆に幸せではないかと思います。
- なので、ある意味数値目標を掲げて、この人口を維持しましょうなどというのはあまり意味がない。問題があるとすれば、子供が欲しいけれど持てないとか、例えば1人を2人にしたいけど金銭的に余裕がないなど、経済的・環境的に育てられないといったことであり、単純に人口が減ること自体は問題がないのではないかと思います。
- コロナも一緒。人口が減って消費が減るとか、コロナで消費が減るのは当たり前で、この事実に対してどう向き合うか、コロナがあろうが人口減少があろうが、潰れる会社は潰れるわけで、どういうところが生き残るかという、その変化に対して柔軟に対応できるところが生き残るだけの話。そうやって柔軟に困難とか何か大きな変化に対して、対応しようとしている事業者や人をいかに支援するかという一点に尽きるのではないかと思っています。
- それからDXの話ですが、これが目的化してしまうのは良くない。DXはあくまで手段。課題や問題、改善すべき点をどうデジタルに置き換えて生産性を上げていくかという手段の問題。

そういう意味では、よく労働集約型といわれる宿泊や観光事業者が悪いというか、よくないように言われがちですけれども、それもまた観光宿泊事業の価値の問題だと思います。人をきちんと介在させて、人が価値を提供しているというところに重きを置けば、デジタルに置き換える必要はないわけで、ただ人が本来やるべきではない、やる必要、価値がない仕事であれば、デジタルに置き換える必要があると思うので、そもそもDXという前に、どこにどう価値を考えて、デジタルに置き換えるところは置き換えるという設計がまず大事かなと思います。

- 最後にワーケーションの話。よくありがちなWi-Fi環境など受入体制整備の事業が出てきそうだが、もはや特に宿泊事業者は既に整備していると思うので、むしろ、ワーケーションに社員を行かせる企業側の問題だと思う。ワーケーションに行きなさい、行ってきてくださいという企業側のメリットがあまりないような気がしている。それで劇的にその社員の仕事の生産性が上がればよいのですが、現状なかなか見えない中で、ワーケーションに取り組もうという企業がどれだけあるのかというのが現状の課題かなという気がしていて、であれば行かせる側の企業に何らかの補助や、もしくは、こういうケースもありますよという事例紹介により推進していく方がよいのではないかと考えています。

(佐藤幸則委員)

- 今までの会議資料を拝見すると、観光客数イコール宿泊客数という考え方だが、昨年、宿泊税の導入を旅館組合で反対したということで、皆さん分かっていると思いますが、観光客数イコール宿泊客数ではない。それだけはこの場で言うておきたい。観光客を増やせば宿泊客が増えて、宮城にお金が落ちているかのごとく表記されるが、それで我々が商売しているわけではない。
- こういうコロナの時代になって、我々も大変被害を受けておりますが、逆に良い点もあって、これからどうやって、商売を持続させるか、そういう意味で切り捨てなければならない部分も出てきており、人口減少も含め、働き手が少なくなるということで、どうやってIT化やロボット化を進めて、働き手を少なくしながら、競争力、同業者に負けないような、商売をしていくかといったことをすごく考えさせられました。
- 観光客が増えることによって、逆に宮城に寄って隣県に宿泊するといった修学旅行や観光客が増えることは間違いありません。観光の計画を立てることが、立てたけれども実際は宮城のためにならなくなるということもあり得る。仙台空港を利用する外国人が増えても、宮城にはお金を落とさずに、ただ昼間の観光だけをして、宿泊は他県にということが実際あり得るので、そういうところも踏まえて目標を設定していかなければならないのかなと思っています。
- 実際は資料や観光パンフレットで宣伝するよりも、SNSなどネット社会で、フォロワー数が多い人や隠れたスポットなりを発信している人たちがたくさんいるので、そういった人たちをもっと活用しながら、もっとIT化され、我々県南エリアも含めてもっと躍進するそんな時代が来るかなと思います。
- あとは当温泉も、スキー場など冬の観光も今大変落ち込んでおまして、町でもスキー場の無料リフト券など取り組んでいるが、なかなか時代に勝てない部分もありますので、しっかりと将来のことを計画しながら一歩ずつ進めたいと思っています。

(佐藤勝栄委員)

- 資料を見ていくと全くその通りで、観光の話だけすればその通り。例えば、人口は明らかに減るというのはわかっているわけですから、人口が減った時に何が起きるのでしょうか。所得全体が減る。所得全体が減った時に、観光に来る人がいますかということを考えると、人口減少が起きても、所得が変わらないようにすればよい。そしたらお金を使える方法がそこに出てくる。お金を使えないと、観光産業をいくらやっても、実はそこにお金は落ちないのではないかと。

丸森町は、新しいビジネスなどそういうものを含めて、町を豊かにするような産業があるかという非常に心細い。そこに観光産業だけを持ってきても、結果的には、町の人ほとんどお金を使わない、よそから来る人を期待するしかない。我々はそういう現実におち当たっている。町人は貧乏だからお金を使えませんかと言われました。本当にそういう状況になってきた。そうすると町で働く人たちが豊かにならなければ絶対いけないというふうに私は思います。なので観光だけを議論してもしょうがない。そういうのを含めて、やっぱり豊かにするにはどうするかという発想がないと、尻すぼみになっていくのかなという感じはします。だからこの富県宮城の抜粋どころは全くその通りで、「質の高い雇用を生み出し、若者の県内定着や県民の所得向上につなげる」となっていますが、では県民の所得向上につなげるような教育も含めてやっているのでしょうか。やはりそういうのも含めて、ここで議論をしていかないと、観光だけの話になっていると不十分という感じがします。

(小野寺委員)

- やはり高齢化社会は進むでしょう。今、佐藤委員のお話ししていただいたように、限られた所得の中でいかに観光にお金を使っていたか、そういう方向のために、我々も何かをやっていこうと考えているところ。コロナの中で、たくさんのお客さんに来ていただけない状況がかなり続いている中で、ビジネスモデルの転換など私の会社でもいろいろやらなければならない瀬戸際までできています。そういった中で時代に合わせていろいろ転換などしていかなければならないですし、ただ、そこに係る費用はどうしても、売上が減っている中で事業者負担がかかってくる。それはどこの会社でも一緒だと思うのですが、やはりそういった頑張ろう、何かやっつけようというところへ支援が欲しいと思います。幸い私の会社は畜産をやっているんで、畜産の方で何とか費用を賄うことができているんですけども、これが飲食店だけをやっていけば、本当に大変な状況になっていますので、頑張ろうと思っても頑張れない人たちがいますので、そういったところの支援が必要になってくるのかなと思います。
- 佐藤委員からお話があった通り、やはり広い視野というのが必要で、観光だけを考えるのは、正直ナンセンスなのかなと思う。富県宮城の計画を立てるにあたって、広い視野には、業種・業態を超えて考えるべきだろうというふうに思っています。
- 私たちは今畜産に携わっていますが、観光には農業も必ず関わってくるところであって、農業も高齢化が進めば、担い手がどんどん減っていく状況が続いていきますし、でもだからといってそれを放っておけば、日本における食料の供給ができなくなるわけで、何とか頑張って規模を拡大してやっつけようという農業の方もいらっしゃいますし、一方でその農業というのをやっていくことで、景観の維持、環境保全、これはSDGsに関わると思いますが、そういったところの視点でやはり農業というのは、観光にはどうしても欠かせないところだと思います。ワーキンググループでも話が出ましたが、農業体験などを通して、地元の方、それから外部の方、どんどん呼び込んで、農業から見た一つの地域の観光というところも組み立てていくことが、SDGsのいうところの持続的な社会の構築に向けては、どうしても必要になってくるんだろうなと思います。なので、その計画を立てるにあたって、観光面だけではなく、いろいろな業種業態を超えて、地域を越えて行政区を越えた連携といった視点は入れて欲しいなと思います。
- 今回 GoTo トラベルの地域共通クーポンを国で実施していただいたおかげで、他県に宿泊された方など通常であればうちに来ていただけないお客様にも来ていただけたということがありますので、やはり、県域を越えた取組という視点は必要なんだろうと思います。高齢社会が進んでいく中で、いかに地域として残っていくか、お客様に選んでもらう地域になっていくかという視点を持った時には必ず必要になってくると思いますので、将来的な計画を立てるにあたっ

ては忘れないでいただきたいと思います。

- ・あと1点お願いですが、「SDGs」は言葉が難しく、これをやってくださいって言われると、今から新しいことをやらなければいけないんですかというようなイメージをまず持つてしまう。実はもう取り組んでいることがいっぱいあって、農家であれば環境保全だとか、できるだけ環境に負荷がかからないことというのはお客様に選ばれるためにやっているんですけども、この言葉だけ先行してしまっ、難しいことをやらなければならないのかなと思われてしまう。やはりそういったものを推進するにあたっては、もっと分かりやすく、具体的なことを記載していただくなり、周知していただいて、もっと取り組みやすい言葉で広めていただきたいなと思います。

(大宮委員)

- ・交通事業者として県南をみると、アクセス、観光資源には恵まれているんですけども、まだまだ認知度が低いというのが現状かなというふうに思っています。それに関わって、県南の農業や直売所、イベントなども含めて、カレンダー的にとりまとめたものについて、見やすく作るにはどうしたらいいかというところを今、ワーキンググループで議論されています。これができる一つの結びになって、県南全体のブランド的なものを構築していくとか、アクセス的なものを構築していくとか、そういったものに繋がる部分をしっかり作っていくというのが、今、我々にとっては背負っている部分ではないかなというふうに思います。
- ・県南も広い範囲ですので、隅から隅までというふうにはいかないにしても、まず、一部でも取り組んでみて、そこから皆さんに波及していくような形のモデルケース的なものをしっかり構築できていければと思っております。それに伴ってこういった戦略に、一歩進むような形の方角で進んでいくようにしていければなというふうに考えております。中長期的な流れで、やはり取り組んだ方向性を何とか令和3年度に向けて、一つでも作ればなというふうに考えております。

(一條委員)

- ・デジタル化は私はすごくしたいと思っていて、具体的に本当に考えているのが、チェックイン・チェックアウト、精算が部屋で全部行うことができれば、チェックイン・チェックアウト時の生産性が上がって、その分人件費が減り、売店もしかりです。やりたいことは実はたくさんあるのですが、デジタル化するには、すごく費用がかかる。デジタル化の管理と維持費にもすごく経費がかかって、とてもじゃないけどできないという状況です。
- ・昔日本は人口が沢山いて、貧富の差があって、労働者が沢山いて、貧しい人たちは旅館でも建設業でも出稼ぎでも一生懸命働いて、給料なんかはほとんどなくて、私どもの旅館の昔の話を聞くと、地元の人たちで働いてる人たちの学校の費用も出してあげて、衣食住みんな面倒見てあげた、給料ではなく。それが給料という形になって、皆さんサラリーマンになってしまったわけです。そういう時代が来て、じゃあ今度どうするかというと、デジタル化にしよう、機械化すればいいじゃない、そうすれば、人が少なくても、どんどんできるんですけどそこまで技術が発達してないというのと、すごく費用がかかる。それらの費用に補助金を出すなど考えていただきたい。
- ・それとさきほど藤田委員がおっしゃったように、私もやはり我々よりも、若くて新型で最新の若い人たちの意見をどんどん取り入れて、若い人たちを活用して、新しい視点を取り入れてほしいと常々思っている。
- ・秋田県にちょっと観光に行っただけで、子供たちへの教育のすごさを感じることもある。角館に桜のシーズンにちょっと行っただけですが、小さい子供たちが、角館の歴史や地場產品の話をすごく勉強して、大人の観光客に語っていました。おじいちゃん、おばあちゃんの観光客が

感心してそれを聞いてくれるので、子供たちがやりがいを感じ、自分たちの町を背負って自分はPRしているんだ、どうぞこんなすばらしい秋田県に来てください、という意識が小さい時から根づいてくるんです。皆さん今人口減少だからといって、いかに子供たちを外に出さないで、自分のところにとめておくかということを考えていますけど、それでは駄目なんです。それでは子供たちが成長しない、子供たちの成長を阻害してしまう。やはり世界中いろんなところに行って、いろんなものを見て、そして知識を得たものを、地元に戻ってきて地元の経済のために、自分の町の発展のために一生懸命尽くしてくれる、これが一番理想的な形であって、どこにも出るな、親元から出るなど言ったら、親の保護の元において、常に守られていて、何かあったときに生きていけない。そうじゃなくていろんな体験をさせてもらいたいというふうに私は思っています。それが、これから地方を活性化させていくことにつながると思います。

- ・それと問題がもう一つあって、高齢化になってお年寄りたちがみんな元気なんです。これから、人生100年と言われて、長生きしてもらいたいんですけど、年寄りが若い人たちがやりたいことを押さえ込んでしまう。地方はみんなそうだと思うんですが、商店街の一つ一つをみても、お店を見ても旅館もそうです。若い人たちが一生懸命、自分はこういう経験をしてきた、こういう考えがある、やってみたいと思っても、生意気だと言って若い人たちの素晴らしいものを押さえ込んでしまう。その辺の改革もしていけないと、地方は生き残っていくのは難しいのではないかなと思っています。

(笹出委員)

- ・皆さんのいろいろな意見を聞いていて、うなづくことばかりでした。私は行政を長くやってきましたので、こういう時代に中期的というか、3、4年の計画を作るのは非常に大変なものがあるかなと思っています。しっかりした次期の観光戦略プランを作っていただきたいというふうに思っております。やはりそういう中で、現計画でも東北のゲートウエーとか、東北と一体となったというような、そういう理念というか観点で進められてきたと思うのですが、どちらかという誘客を6県一緒にやったりとかってということで、あまり隣接県とのきずなというか、連携が強くないのではないかと、一部、仙山連携など何年間もやっておりますが、やはりその隣接県との強く連携した観光プランみたいな、そういった仕組みづくりを是非、観光課でやっていただいて計画に位置付けていただきたいと思います。具体的に言いますと、県内各7圏域には必ず隣接県があるわけですし、うちの圏域で言えば、福島や山形と具体的にどんな連携ができるのか、県境を越えて、仙南圏域は広いですけれども、さらに周遊的なことを考えて各圏域に模索してもらったり、ということが必要なのかなというふうに考えております。そのためにも、そういった隣接県との強い連携という仕組みづくりを観光課で是非考えていただいて、次のプランに位置付けていただきたいなあとというふうに考えております。

(宮原座長)

- ・皆様のご意見をいただきまして、私の方も少しお話をしたいと思います。今回観光プランの策定に向けては、県の上位計画の将来ビジョンの中で、政策推進の基本方向「4本の柱」と「持続可能な未来」のための8つの「つくる」のなかで、観光は「新しい価値をつくる」というところにカテゴライズされていると説明を受けましたが、これはすごくいいなと思います。まさに観光のなかで、新しい価値創造というのは、これまで以上にその働きを強めていく意識を持ってやっていく必要があるのではないかなと思います。今回お示しいただいた、今後の人口減少のデータですが、観光産業に対するその将来を見たときに、やはり人口減少だけがこの観光産業を脅かしているわけではなく、村上委員が最初におっしゃったように、今現在進行中のコロナの問題、このコロナに関しては、一番産業としての観光の根幹であるたくさんの人を集めて、送客して、そこから収益を得るといった、従来のビジネスモデルが今通用しなくなりつつある

という非常に深刻な状況だと思えますし、集ってはいけないとか、交流をなるべくするなといったような、今までやってきた観光と全く逆の方向性のなかで、観光を考える、それは一つのチャレンジでもあるし、それであっても、なおかつ、観光がいろんなお客様に喜ばれて、宮城の中で楽しんでもらえる、そういったものをどう作っていくかというのは、やはり新しい価値創造の一つのチャレンジだなどというふうに思います。

- それからも一つの観点として、ここにはあまり触れられてない、触れられているところとしては、災害の部分ですが、東日本大震災が終わって、何かもう金輪際大きな災害が来ないようなムードが漂っていますが、今朝ほどのニュースでは、宮城県沖地震の今後 30 年以内の発生確率が少し上に上方修正しましたという話がありまして、宮城県沖地震でもマグニチュード 7 クラスの地震になるわけですから、東日本大震災とは言わず、この宮城県の土地的特徴として、やはり三陸でしたら 30 年とか 35 年に 1 回、津波を伴う地震があるわけですので、そういった地震や津波に関する災害を前提とする、また、昨今の水害もありましたけれども、こういったことが、実際には地元の観光や地域の産業に大きな被害を及ぼすし、経済的にも少し打撃を与えてくるというところを考えると、やはり今後の社会というのは人が減ることだけではなくて、こうした実際に被害が起きるような災害が頻発する中で、どういうふうに観光を組んでいくかという視点もすごく大事ではないかと思えます。少しシビアに考える部分で、コロナとそういった自然の基本エントリーに対する災害のところも重要ではないかと思いました。
- 今日皆さんからお話をいただいているとやっぱりすごく大事だなと思うのは、そういった価値創造をしていくのであれば、藤田委員や一條委員がおっしゃったように、これからの世代の人たちが観光にどう関わっていくかというところを、やはり県としても積極的に取り込んでいくべきで、若い事業者、経営者の人たちのネットワークなど、そういったものを作っていくことが大事だと思います。やはり宿泊事業者も代替わりされるとすごく伸びる旅館やホテルもあったりして、従来のことと違うことができるっていうことが、一つの大きなステップアップに繋がっているんだなどというのは何となく私も見て感じるところでありますので、次世代の事業者の人たち、観光を担う人たちについて、何か考えて欲しいかなと思いました。
- それから遠刈田の佐藤委員からも、観光客を増やすことではなくて、やはり宿泊客をどう増やしていくかということが非常に大きな観点であるということです。
- それから、上手にデジタル技術を使いながら宿泊事業を進めていくということも、変えたい方たちの声を吸い上げながらやっていくのがいいのかなと思えます。例えば、さっきおっしゃっていた部屋でチェックインできるとか、タブレットを使って、例えば仙南だったらみやぎ蔵王地域の逸品のお土産が買えて、クレジットカードで決済ができて、お客さんが家に帰るころには通販で買ったお土産が届いているなど、そうやって部屋の中から出ないけれども、地域のいろんな品物を見たり買ったりすることができる仕組みなど、やはり宿泊ビジネスの中で、もっともっといろんな地域の産業と触れ合う、農産物でもいいと思えますが、来週はその小さな旅をそこから申し込むことができるなど、そういうことができる可能性がたくさんあるのかなと思いました。
- あとやはり、他の産業や他の地域との連携を観光のサイドから繋げていくような姿勢はものすごく大事で、それをしない限りは新しい価値創造というのはなかなか難しいのではないかと思います。笹出所長もおっしゃったように隣県との連携などもものすごく大事だなというふうに思いました。
- あとやはり、産業で町を豊かにしていくという丸森の佐藤委員からのご意見もすごく大事だと思います。観光だけが町を豊かにするというのではないのですが、ただ、今言ったように何かと何かをくっつけていくというのは実は観光はすごく得意な分野だと思います。そういった

人と人をつなげて、売れる世界を紹介していくとか、ないしは新しい何か製品を作っていくとか、そういった部分で観光が他の産業にも影響を及ぼしたり、貢献できるような役割を作っていくことも大事なかなと思います。すごく社会が大きく変わり始めてくる中で、第5期を作るということであれば、やはり従前の観光モデルではない前提のもとに、計画を始めていくことも重要なかなと思いました。

(嶋崎委員)

- 一つだけ付け加えさせていただきます。SDGsと言いつつも、この部屋にいらっしゃる面々を見れば、いかに多様性がないかということが一目でお分かりになるかなと思います。まず小さいステップから変えるのであれば、まずここにいる人たちの顔ぶれを変えてみるというのもすごく大事なかなと思います。これは今まで皆さんがおっしゃったことにつながるんですけども、同じような業種、年齢、性別で考えてもやはり今までと同じアイデアしかでないわけです。今の現状の延長線上には多分明るい未来はないと私は思っているの、そこはまず変えてみるのが大事なかなと思います。また、行政の縦割りのところも少し変えてみることも大事なかなと思います。この会議に農政関係の方や教育業界の関係者を加えるなど、まずはファーストステップとして取り組むべきではないかなと思います。仮に来年度、今からは変更はちょっと難しいかもしれないですけども、メンバーが全く変わらないとしたら、おそらく出る意見も一緒だと思うので、そこをまず変えてみるべきじゃないかなと思います。

(宮原座長)

- 本日のメンバーを見ても、各市町の皆さんを含めて、一言で言うと女性がいない。男性が悪いとは言いませんけれども、やはり多様な人たちが観光に関わって意見を出し合う場を作っていくということも大事なかなと思います。やはり人が変わっていかないと出てくる意見も代わり映えしないのかなと思います。ただこの圏域会議では、ほとんどいままでお付き合いのない方々に来ていただいたので、これはすごく大きな刺激になったと思いますし、ありがたかったと思います。

(観光課 川部補佐)

- 様々なご意見をいただきましてありがとうございます。宮原先生にまとめていただきおりましたので、私の方からは2点だけ。コロナの影響についてですが、冒頭で説明しました通り、回復戦略を策定して現在のプランを1年延長するというところで、次のプランは令和4年度からスタートということになります。コロナの影響というのは今後まだまだ不透明なところがありますので、そういうところもしっかり認識しながら、残る課題等につきましては、次のプランでしっかりと整理をしていきたいというふうに考えております。
- あと2点目ですが、人口減少について、減ること自体は悪いことではないのではないかな、それとどう向き合っていくかが大事ではないかというお話がありました。今回、人口減少の今後の状況を説明させていただきましたが、なかなか抜本的な手立てがない中で、観光産業がどうやって生き残りを図っていくか、そういったところを次のプランでは皆さんと一緒に考えていきたいというところで、前提として説明させていただいたところがありましたので、今日様々な視点でご意見をいただきましたし、また年度が明けましたら、次の会議もありますので、また皆様と一緒にしっかりと議論をしていながら、新しいプランの策定につなげていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。